



森のなかま

2009年8月号

NO. 16 (継続161)

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp>

発行人 島岡 功

念願の「NPO 法人かながわ森林インストラクターの会・連絡事務所」 8月1日【土】にオープン

事務局長 竹島 明

私たちの会にとって念願であった「連絡事務所」が8月1日、神奈川県森林組合連合会が所有する厚木市グリーン開館内にオープンする運びとなりました。

今回の事務所開設にあたりましては本当に多くの方々から多大なるご協力・お力添えをいただきました。場所の確保、賃貸条件の内容、そしてオープンにあたっての必要装備品の調達等、まさに貧乏所帯のわが会が幾多のハードルを越えることができたのも、ひとえにこれら多くの方々からのお力添えがあったればこそと、この紙面を借りまして深く感謝申し上げます。

「連絡事務所」の設置は、恒常的な対外的な窓口の確保にととどまらず、当会のアピールとしても大きな意義を持っており、今後の会活動の拡大・発展に必ずや力になるものと確信しております。当面はエントリー業務の応答、会計・事務局の事務処理のベース基地として、その機能を発揮していきたいと考えています。

確かに今回の「連絡事務所」は1フロアを3団体が共同で使用するもので、名実ともに事務所設置とは言い切れないところがありますが、ここは小さく産んで大きく育てるの喩えに習い、将来を期したいと考えます。

現在、電話機、複合機（FAX、コピー、プリンター）そしてコンピュータ等の通信網の整備を進める一方、戸棚、キャビネット、椅子等の必要装備品を充実させています。（これら備品は今のところ全てご厚意に頼っています）

今後、常駐体制も展望しながら、会運営のために大いに役立たせていきたいと考えています。

連絡事務所概要（住所・連絡先等）

項目	内容
所在地	〒243-0014 神奈川県厚木市旭町1-8-14 グリーン会館内3F（小田急線本厚木駅南口・徒歩5分 <グリーンのビルです> 小田急線沿い、小田原方面、）
電話等	電話 046-280-4101 FAX 046-280-4102 E-mail k-inst0981@friend.ocn.ne.jp
グリーン開館概要	開館、閉館（警備会社管理） （1）平日 開館午前8：00 閉館午後7：00 （2）土、日、祝祭日 終日閉館 同室団体 ・神奈川県山林種苗協同組合 様 ・神奈川県林業協会 様

「連絡事務所」開設記念寄付金のお願い

特定非営利法人
かながわ森林インストラクターの会
理事長 島岡 功

このたび NPO 法人 2 年目を迎えた私たちの会が、連絡事務所を開設することができたのはひとえに、会員ならびにご支援を頂きました皆様方のまさに骨身を惜しまない当会に対する熱き思いがあったればこそと、深く感謝いたしております。

今後は事務所常駐の体制作り、継続的な活用を保証する安定的な財政基盤の確立等、急ぎ整えないといけないことがあります。

つきまして、今回「連絡事務所」の開設にあたり「開設記念寄付金」を募らせていただきます。寄付金は連絡事務所の運営資金として活用させていただきます。なにとぞご支援よろしく願いいたします。

連絡事務所開設記念寄付金	1口 3,000円
払い込み方法	郵便振替 00230-0-2454
宛先	かながわ森林インストラクターの会

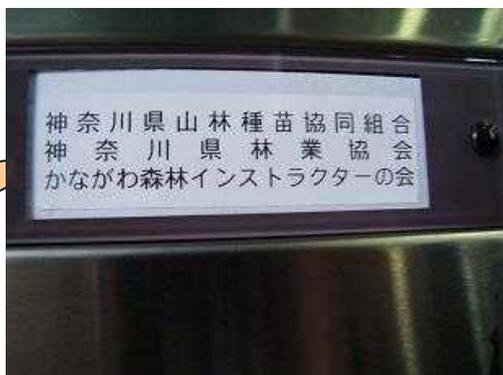


グリーン会館正面入り口



連絡事務所です。

ポスト
郵便受け
も万全な
体勢です。



かながわ森林インストラクターの会デスク

私の認識

野鳥その69

高橋 恒通

日本国内で見聞きできる野鳥に限定、と言う制約条件下で鳥好きにとって最大の難関は水辺の野鳥のチドリ目シギ科とカモメ科の鳥達をひと通り識別、同定が出来る事です。

私も日本野鳥の会に入会し、続いて日本鳥類保護連盟、WWF - J、自然保護協会の個人会員となり、ビギナーの頃は毎週週末には何処かの探鳥会に出掛けてました。日本野鳥の会も本部と神奈川、沼津の両支部に加えて、神奈川支部の中の下部の会である高麗山探鳥会、通称は“こまたん”や県央地域の“ふれあい自然探鳥会”と、昭和61年(1986年)に入会してからの3年間はまるで狂った如く、カミさんの言葉だと「本当の“鳥気違い”はもう少しマトモな人間を言うんじゃないの！呆れたネエ」のセリフを何度も聞かされていました。それにも拘らず肝心のシギ科、カモメ科の野鳥観察の機会に恵まれなかったと言う皮肉な過程を辿った結果、シギ、カモメ両科に関する知識はビギナーに少し毛の生えたレベルと認識しております。

言い訳はサテ置き、以前に旅鳥のレンカクを紹介しましたが、その折にレンカクは が抱卵や子育てを行い、逆に の方は産卵すると別の と交尾、産卵し、そしてまた別の へ・・・と行動する野鳥と書きました。

実はレンカクと同様の行動をするのが今回ご案内する留鳥又は漂鳥でチドリ目タマシギ科のタマシギ(漢和名:玉鷗、英名:Painted Snipe 直訳すると“塗色されたシギ”)体長L=24cm なのです。

先ず体色ですが、野鳥に関する一般論的には の体色が派手で が地味となります。然しタマシギは、造化の神の思召しか又は生物進化の過程に於ける現象なのか正反対です。

の体色の最大の特長は目を取り囲む太くて白色のアイリングです

その太く白い線が目の後方から頸部に伸び、額から頸部、胸前にかけて錆茶色(サビチャイロ)(赤褐色)になっており、その胸から胸側にかけて太く白い線が走っている為に、アイリングのポイントが一段と目立つ訳です。そして背面は灰褐色でして、その中に黒褐色の細い横斑があります。下面は黄白色で遠くから見ても良く目立ちます。

これに反して抱卵、育雛(イクスウ)するは上面全体が抑制の利いた黄褐色でアイリングも濁黄色で全体が地味である事を強く認識します。

タマシギの棲息地域は水田、休耕田、河川など湿った場所です。

採食活動は朝夕が多く(夜間にも活動すると言われていています)甲殻類やミミズ類、貝類そして昆虫類の幼虫などを好みますが植物質のものも食するそうです。

タマシギの は繁殖期の夜間に「コウ、コウ・・・」と発声するそうですが、私は未にしての啼き声は聴いておりません。その啼き方はテンポが緩やかで10回から50回ぐらい続けて発声するとの事です。

私がタマシギを観たのは、単身赴任していた茨城県の新利根町(現在の稲敷市)の田園です。7月初旬、分蘖(ブンケツ)(株分かれ)が進んだ稲田の中でジッとしている と が、条植形に見える苗の間に居りました。頭をゆっくり上下した時に と をハッキリ確認しました。

神奈川県下では、伊勢原、平塚、座間、海老名の水田地帯で確認された記録がありますが、私は残念乍ら遭遇の機会(チャンス)に恵まれてません。

非繁殖期(冬季)には群が湿った水田などで観察されるとの事ですので、県下でのタマシギとの出会いに希望を繋ぎ続けてます。



タマシギ

<参考資料>

- ・日本の野鳥、山溪ハンディ図鑑7、写真・解説 / 叶内拓哉、分布図・解説協力 / 安部直哉、解説(鳴声) / 上田秀雄、山と溪谷社
- ・かながわの鳥図鑑、日本の野鳥の会神奈川県支部、第46回愛鳥週間「全国野鳥保護のつどい」神奈川県実行委員会
- ・写真:ウイキペディア・フリー百科事典より

本の紹介

堤 洋 8期

自然はそんなにヤワじゃない 誤解だらけの生態系 花里 孝幸 著



著者は湖の生態系の研究者であり動物プランクトンの研究をされている。動物プランクトンは食物連鎖の中では初期に位置しており魚や鳥等の餌である。この研究を通して現在の生物多様性、自然環境保全を「上から目線」での偏った環境認識について警鐘を鳴らしている本である。

構成は全四章、「生物を差別する人間」、「生物多様性への誤解」、「人間によって作られる生態系」、「生態系は誰のためにあるのか」の各章表題毎に事実や研究事例、自己の意見をまとめられている。

事実や研究成果に裏打ちされた意見を書かれているので、生物多様性についても全貌を俯瞰したまとめられ方をされていて非常に判り易くなっている。

「邪魔者扱いされる雑草」の項で、「雑草」と言うのは人間の都合でつけた呼び名であり、人間の役に立つ立たないは時と場合により異なる。クズが事例としてあげられているが、その場、その時の都合で邪魔者扱いされている。

他の事例に、諏訪湖での事例でユスリカも邪魔者扱いである、一方でその幼虫は魚の餌の一つとなっている。ユスリカ減らすことで環境が良くなったという反面、ユスリカの幼虫を餌とするワカサギが小型化しその漁獲高が減って漁業者が困っているという現象も生じている。生態系を巡る話題である。

人間も生態系の中での一生物である。里山保全という、自然保全の活動も盛んになってきているが、里山保全の意義を生物多様性に求めるには無理があろう。

結果は単に昔ながらの景観文化を懐かしんでいるだけであって多様性の保全にはなっていないとの意見だ。

著者の主張は「我々が人類であるから、地球生態系は人類が健全に生きていく為に、人類に利益を与えてくれる生態系を保全すべきである」、但し、それは今の人類の都合が良いようにやっていいということではない。「人類は一万年をかけて世界中の木を伐採してきたが、人間がいなくなればたった五百年で森が復活する」。生態系保全についての結論は「地球に人間はいらない。だが、人間には地球が必要なのだ」、非常に重い言葉と納得しています。(新潮選書 1000円+税)



クズの花

どうぶつ・シリーズ

その1 人工林と野生動物

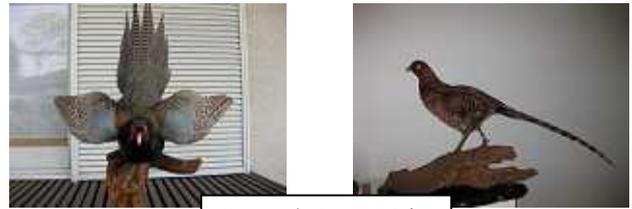
中島 進市(9期)

国土の60%以上が森林と言う日本、しかし林業経営をとりまく環境は大変厳しく、特に保有森林面積規模は極く小さく、保有面積が1~5ha以下の林家戸数が74%を超え5ha以上の林家戸数は0.7%以下という調査報告書を目にしたことがあります。しかも日本の地形は(森林帯)傾斜がきつく林家にとって育林作業にかかる労働力の負担は大である。

山育ちの自分が銃を背負って先輩達に連れられて狩猟を始めたのは今から45年以上も前になる。当時は戦後の荒廃した山林を林家の人達は一生懸命に地ごしらいや植林を進め(スギ、ヒノキ)、とても現在では想像も出来ない程「山」を大切に守り、樹を育てていました。若い時分は「羽もの猟」や(キジ、ヤマドリ)「ウサギ猟」をし、狩猟鳥獣の棲息環境習性などを身をもって覚えたものです。そしてキジやウサギは草原に棲息(日本には草原は存在しません)が皆伐、植林した後の状態)していることでした。幾度かのヤマドリ猟のなかでも特に茅ヶ岳、太刀岡山、曲岳(何れも山梨県中巨摩、北巨摩地方)あたりは獲物の姿が濃く、狩猟法で定められた定数をすぐに達成できたものです。その当時の「山」の環境はと言うと、降雨量の少ない乾燥した日々が続いても、沢のいたるところで清水が湧き出し、決して枯渇するがありませんでした。その水場では多くの生き物達が互いに利用する時間帯を決めあって争うことなく喉を潤し、水浴びをし、身体についてハムシやダニなどをブルブルと振り払っている光景でした。自然界では「弱肉強食」などと表現していますが、野生の動物たちは必ずしもそうではなく、無意味な争いは避け、互いに譲り合って共生しているのだと初めて知りました。何年も同じコースを辿ると自然に美味しい水が湧き出ている場所を覚え、そこを通過する時には必ず一服したものです、その水の美味しかったこと今でも忘れることが出来ません。

最近野生動物の個体数が減少していると言われています、その大きな理由として常識のないハンターの捕獲によるものと言う説を唱える人がおります。しかし、私の長い狩猟経験から見れば、たった3ヶ月の猟期中に個体が全滅、或いは子孫を残せないほど捕獲してしまうことは考えられません、ましてや年々狩猟者登録数も減少しているのが現状です。数年前、猟仲間と自慢話をしながら昔歩いた猟場について驚きました。そこは雨上がりでも無いのにスギ林の沢筋は薄暗く、林床植物は一本もなく泥濘となって、あたり一面痩せ細ったスギが倒れ、前に進むことすら困難な状況でした。

このような森林には動物はおろか他の生物もみることが出来ません。まさしく人工林など40~50年前に林家が丹精こめて守り育てきた。「山」を放置してしまった結果だと思う。この結果野生動物の棲息場所や環境を奪い壊し、強いては個体数の減少、時には動物の異常行動となって現れているのだと思う。このような生物多様性が認められない「環境」を修復し「元気のある森林づくり」こそが野生動物たちの個体数の復活にも、つながりやがては保水性、生産性の高い「緑のダム」が完成するものと信じます。



やまどりときじ

活動短信

5/31~7/11

明治大学 M-Navi 里山ボランティア

- 日 5月31日(日)
 場 麻生区民健康の森
 参 明治大学学生14人・M-Navi・IVC里山班学生スタッフ7人・アイ・フォスター2人
 大学 倉本 宣先生 川嶋 雅章先生
 協力者 麻生多摩美の森の会 2人
 公 コーディネーター・野牛 (川崎市公園協会)
 イ L須長、大塚、清水、小林、宮下

明治大学のM-Navi里山ボランティアの活動麻生区市民健康の森で行われた。これは大学のボランティア活動の一環で、当会に支援要請されたもの。当日は、下草刈り体験と樹木博士の検定。活動への参加学性14名、関係者19名で総勢33名となった。開校式は主催者の挨拶で始まり関係者の紹介に続き野牛コーディネーターからの全体説明とリーダーの須長さんから「下草刈り作業と安全確保」について説明があった。ストレッチ体操の後、いよいよ作業の開始。班毎に分かれ現場で鎌の使い方、刈り方などを指導。午前中の草刈り作業は順調に終了。午後は枝打ちや不用木の間伐を実施し林内整備完了。その後天候は雨。しかし、予定の樹木博士は10種類の樹木で実施。病気やけがもなく作業は終了。振り返りや感想をいただいた。若い人たちが熱心に里山のことを理解しようとする気持ちと、管理に取り組もうとする熱意が感じられたことはうれしい限りであった。関係者の協力とみんな味わったおいしい豚汁にも感謝。(記 10期 宮下)

活動短信

ツアー「よしみ」森林づくり作業体験

日 6月20日(日) 晴れ 11時 15時半
 場 やどりき水源林
 参 村瀬団体代表他 26名
 財 豊丸
 イ L小野、横山、加藤、

9.30 迄に集合し、10.00 15.00 活動とのことであつたので、我々3人は1時間前に現地に行き、打合せのうえ待機するも、交通渋滞のため到着は11.00 過ぎになった。早速、倉庫脇で作業準備をした後、小野リーダーが間伐作業の手順方法、安全確認等の説明をし、ストレッチ体操をして、作業現場のボランティア林Aの頂上へ出発した。減らず口を叩きながら和気藹々と登っていく様はハイキングを楽しんでいるようであった。12.30 頂上に達したので、昼食を取りながら遅れた2人の到着を待った。13.00 遅れて到着した2人が食事を済ませる間、横山さんが間伐等森林作業について、加藤が神奈川県森林づくりの取り組み、最後に小野さんが森林荒廃のもとになっている木材価格について解説した。シーンとして一生懸命聞いている様子、最後に拍手を送るなど意外な一面を見せた。13.30 作業を開始した。ノコギリを使うのも覚束ない様子であったが、段々慣れてきて全部で9本のヒノキを間伐し、14.30 下山した。短い時間であったが、架かり木も適当に起こし彼等にとっては密度の高い貴重な森林作業体験になったようであった。下山途中、ツアー「よしみ」について団体代表に伺った。職場を異にする飲み仲間、年に一度旅行しそこで色々なことを体験する団体で、去年は長野に行き、椎茸やナメコ作りを体験したそうである。ノコギリの手入れをし、記念撮影をして、15.30 貸し切りバスで次の目的地天城山へ向かった。何とも忙しい疲れの多い活動であったが、無事に役目を果たせたと言う達成感を感じる事が出来た。(記 8期 加藤)

川中島中学校第2学年・「ふれあい森林ツアー」

日 6月15日(月) 曇り 10時~14時半
 場 やどりき水源林
 参 川崎市立川中島中学校2年生6クラス216名
 教師13名。
 財 古舘
 イ L斉藤、落合、鈴木、島岡、宮本、
 須長、武川、伊藤、坂齋、諏訪部、
 中島、村井、松山、

雨が心配される天候の中、川中島中2年生216名が元気に到着。ふれあい森林ツアー6コースのうち4コースをインストラクターが担当した。全体で生徒の司会による「はじめの会」が行われた。インストラクターからの注意事項を聞きそれぞれのコースへ。

1コース：水生生物・自然観察5班
午前中は河原で水生生物の採集と観察を行った。初めは恐る恐るであったが、カジカやガガンボの幼虫が網に入るたびに興味を増していったようで、時間が短く感じられた。しまいには全身水につかる生徒まで出てきた。この活動の中で、やどりき沢の水は川中島中の水道水にも給水されていることを伝えた。午後からはBコースの自然観察を行った。できるだけ5感を使う素材を用意し、生徒の興味を持たせる説明を心がけた。また水源林の意味と森林の働きについても要所ごとに説明した

2コース：チャレンジ林業4班

圧倒的に女子生徒が多く21名中、男子はたったの3名。登り50分近くの急登をこなし、しっかり間伐をしてきた横顔は輝いていた。

3コース：自然散策・自然観察班2班

1班；島岡、林道からAコース、河原で水生生物

2班；坂齋、林道からAコース、Bコース
林道からAコースの自然観察案内を実施した。水源林パートナーの説明、ちょうど食べごろのニガイチゴがあり森の恵みの味を体験した。生徒たちはキュウイの味がするとの食感、杉の葉とヒノキの葉、又、木肌の違いの感触を体験した。成長の森の説明をした。複層林の説明をした。森林の手入れの必要性を説明した。アブラチャン、クロモジ、サンショウの香りの体験をした。ムササビの巣を見せ多くの動物が森に住んでいることを話した。生徒達はやや落ち着かない面もあったが、良くインストラクターの説明を聞いてくれたと、感じている。(島岡)

4コース林道ウォーキング自然観察2班

1班：村井・2班：中島 *排気ガスのない空気は美味しいなあー(生徒の感想でした)村井)コースによって多少集合が遅れましたが、全体で「終りの会」をやり元気に帰途につきました。心配された雨もなく、事故もけがもなく無事終了でき、遠足という位置づけの活動で、やどりき水源林の自然を大いに満喫でき、森林に対する理解も多少増したのではないかと期待しています。(記 9期 諏訪部)

県民参加の森林づくり(下刈り)

日 6月14日(日)
 場 小田原市久野
 参 大人 76名
 財 永島、古舘、**県森** 三尋木、**看** 廣島
 イ L辻村、柏倉、佐藤武、相馬、
 白畑、浦野、水口、青木、木島
 後藤、宮下、

梅雨空の下、なんとか一日雨降らずに持ちこたえてくれて感謝。5年生の落葉樹の下刈り作業は参加者の意気込みと努力によって予定区画

も早々と終了。(各インストラクターの指導力により)参加者の物足りない雰囲気を感じた主催者は予定外の場所まで提供したことで、満ち足りた顔・顔。早々の昼食をとり看護師さんのお世話にもならず、解散となった。(記 9期 辻村)

森林づくり体験講座 A 下刈

日 7月4日(土)
場 水源林・魚止めの滝
参 15名(男性11名・女性4名)
財 高橋、古館、**講師** 小沢 操 **看** 青木
イ 山松、堀江、佐藤、横山、須長、富樫、塩谷、久保、大澤、**研** 後藤
 梅雨前線が徐々に南下して、朝方までの雨が上がり、絶好の下刈り日和となった。8時40分JR橋本駅からマイクロバス2台で現地に向う。所要時間70分。現場は昨年10月に植栽された若い広葉樹。オリエンテーションの後、作業開始。参加者15名をインスト9名が受持ち、行届いた指導と適切な助成に依り、当初懸念された刈り残しも無く、予定の時間内に無事終了。昼食後『魚止め森の家』会議室にて、小沢操先生の講座『神奈川の森林の歴史と文化』を受講。14時魚止めの森発、15時橋本駅にて解散した。(記 10期 松山)

『平成21年度 川崎市里山ボランティア』 育成講座 第二回

日 7月4日(土)
場 等々力緑地(川崎市中原区)
参 一般市民 28名
スタッフ 川崎市公園緑地協会ほか 6名
イ 山松、鈴木、伊藤、渡部、清水、金森、
 川崎市公園緑地協会が実施する「里山ボランティア育成講座」シリーズ平成21年度の第二回目。今回は中原区にある等々力緑地内で行われた。午前中は市民ミュージアム内の一室で、明治大学の倉本教授が「里山について」1時間ほど講義、続いて松崎が「道具の使い方、手入れの仕方」を30分ほど説明した。午後は草刈の実習を1時間30分、そして鎌研ぎの実習を30分、3時少し前に、まとめおよび次回案内をして解散した。草刈実習は梅雨時の曇り空の下、猛烈な湿度の中で皆汗をダラダラかきながらの作業だったが終わってすっきりとした広場を見て納得したようであった。鎌研ぎもほとんどの人が初体験のようで、研ぎ終わり、刃が切れるようになって皆満足げだった。(記 5期 松崎)

県民参加の森林づくり

日 7月11日(土)曇り 8時半~13時
場 南足柄市矢倉沢(風切寄付森林)
参 県民78名
財 永島、豊丸、**看** 廣島
イ 山渡、井出、米山、大道、善波、安藤、植松、石田(順)、鈴木、水津、上田、中田、松山、福原、酒井、橋本、

週間天気予報では雨の予報が出ていたが、当日は曇りで時々日がさす活動中は蒸し暑い陽気であった。従って、安全面では傾斜地での刃物の取り扱いと言う事で近接作業・上下作業の禁止と言う基本事項はもとより、暑い中での作業なので適時の休憩と水分補給や、そろそろ活動が活発となる蜂への対処が主な指導事項となる。

現場は元々竹藪を払って植樹した場所とのことで地拵えした際の竹を積んだ柵が等高線上に点在している。そのため上下の移動がしづらく、各班とも更に数名づつに分かれ柵を境に分かれての作業となった。そして竹が再び生えてきているので特に竹が多いエリアの班は大鎌と竹用鋸を持っての作業となった。植栽木ハケヤキ、コナラであったが、下草・竹の生長が著しくほとんど見えない。細い目印棒があるものの、小さな物は見つけづらく、誤って切らないように細心の注意が必要となった。大きな植栽木は1.5m程になっており、成長に差がみられる。あるいは、小さな木は一度誤って切られたのだろうか?下草や竹の伸び具合、エリアの広さより時間内に終了出来ないことも予想されたが、始めれば順調に作業は進み、予定よりも20分程早く終了。始める前は、植栽木も柵さえも隠れて見えず、作業現場にたどり着くのも一苦労な状態であったが、見違えるように綺麗になった。そろそろ、蜂が活動を活発化させており、2名がアシナガバチに刺された。フィールド内でも3つの巣を確認できた。昼食後、森林ミニ講座の後解散。(記 8期 渡辺 靖)

宮崎小学校 ~やどりき水源林を探ろう~

日 7月2日(木)
場 やどりき水源林
参 川崎市立宮崎小学校5年生212名
 先生他9名。計221名
財 鳥海、古館、
イ 山森本、高橋、鈴木、島岡、竹島、宮本、斉藤、鈴木、愛木、伊藤、加藤、三浦、内野、村井、海野、杉崎、時田、福原、

総合的な学習の時間として設定された大観察会。一時、小雨も降ったりしたため、Bコース中心で学習した。昼食後は、寄沢に入り、水生生物の観察をする班もあった。豊かな水生生物相は、やどりき水源林の売りの一つとして、今後とも、取り上げていきたい。

終了後の満足度チェックでは、概ね、楽しんでくれた様子あり。インストラクターも、生徒全員と握手して、子供達から元気をもらっていた。なお、ヒル献血者2名、摺りキズ1名、いずれも私の班で反省。次回、バス車中での水源林ビデオ放映も提案していきたい。(記 5期 森本)

やどりき水源林
ミニガイド

7月のトピックス



有志参加の成長の
森下草刈りスタート・ご苦労さまです。

8月の水源林



7/25撮影

県花“やまゆり”が水源林を飾ります。
希少種になりつつあるので大切に。

「森の案内人」情報

実施時間：毎週土曜・日曜・午後1時
より1～2時間程度(12月1月2月休止)

集合：水源林入口ゲート前

内容：森林インストラクターが自然観察
にご案内します。森林のしくみ・手入れ
などについて説明いたします。

参加自由、参加費無料

*10人以上の団体は事前に下記までご
連絡ください。

問合せ：(財)かながわトラスティ
り財団 TEL:045-412-2255

fax:045-412-2300

●ホームページ：<http://www.ktm.or.jp>

●E-mail:midori@ktm.or.jp

●やどりき水源林までの道順

小田急線新松田駅または JR 御殿場線松
田駅下車、富士急湘南バス「寄(やどり
き)」行き乗車約25分。バス下車後(案
内板あり)川沿いに徒歩35分。
寄大橋の右横が水源林ゲートです。

横浜で観れました！！

部分日食です。



森 義徳 撮影(広報部)

森のなかま原稿募集

会員・購読の皆様からの原稿を募集し
ています。写真、スケッチなども募集
しております。

送り先

< 配信希望者・手書き原稿 >

森 義徳

〒232-0053

横浜市南区井土ヶ谷下町 16 - 3-202

Tel/090-5433 - 7784Fax/ < 株リコ

ー・森宛 045 - 590-1910 >

Mail:myforest@yha.att.ne.jp

配信希望連絡は毎月20日〆です

< メール原稿送り先 >

【本誌】村井正孝

〒226-0002

横浜市緑区東本郷 6-22-1-420

Tel/Fax: 045 - 476 - 4112

Mail: murapu60dai@yahoo.co.jp

【別冊】金森 巖

〒227-0038

横浜市青葉区奈袋 2丁目 10-5

Tel/Fax: 045 - 961 - 6695

Mai: i_kanamori@morinotabibito.com

【CCで】森本正信

〒194 - 0001

東京都町田市つくし野 2-13-7

Tel/Fax: 042 - 796 - 6011

Mail: morimoto@bikkuri.co.jp

原稿の締切は毎月20日です。

= 編集後記 =

来年度から勤務先に隣接する雑木林約3
ヘクタールを整備します。八王子市の管理
で、広葉樹林、湧き水もあります。社員参加
型で月1回の整備を行います。いよいよマイ
フルドでの活動開始です。(金森)

今回より電子配信の担当をいたします。こ
れからも、より使いやすい読みやすい会報を
目指したいです。ところで、みなさん
話題の日食はご覧になれましたか？私は幸
い職場で雲の切れ間からうっすらと見るこ
とが出来ました。次は、2012年5月21日に
金環食という日食の一種が観察されます。そ
れも、この横浜がベストな観測地です。皆さ
ん、期待しましょう！(森)

久しぶりに、下刈に3回も続けて励ん
だ、汗も吹く中での作業は、愉快ではな
いが必死に草を刈る自分に気がついた。
刈り終わった斜面に一陣の風が舞う。仕
事の終わりは快適だった。”風が舞う、
額の汗に、水美味し”(鈴木・松)

ここ数年嗅覚障害で、においの感覚が
なくなっていた。点鼻薬治療を根気よく
続けることで、樹木のにおいが分かるま
で回復し、森に入るとにおいを嗅ぎまわ
っている。(井出)

7月から広報部に加わりました。

よろしく願います。

目標は質実剛健です。(鈴木朗)

3坪の連絡事務所が開所しました。居
酒屋の「つば八」は、8坪の1号店が由
来とか。小さくても、愛燦燦(さんさん)
の拠点にしていきましょう。ご厚志をよ
ろしく。(森本)

25日森案内でやどりきに入る。日立
電サさん、鈴廣かまぼこさん、日揮さん、
成長の森下草刈りと、この日の水源林は
大賑わい。秋の「水源林のつどい」が待
ち遠しいですね。(村井)

年間購読のお申し込み

「森のなかま」年間購読をご希望の方
は、郵便局備付けの郵便振替を利用して
お申し込みください。

郵便振替口座 00230-0-2454

かながわ森林インストラクターの会宛まで
購読料年2000円をお振込みくださ
い。振替用紙には、必ず、住所、氏名を
明記してください。振替用紙到着の翌月
号から12回/1年間お届け致します。
(頒価 200円 送料共)

編集人：村井正孝

広報部：井出恒夫(HP) 金森 巖

鈴木松弘 森本正信

森 義徳 鈴木 朗

森林文化講演会のお知らせ

くらしと森をつなぐ森林管理の第一人者只木良也氏による

「森林文化講演会」です。皆様お誘いあわせてぜひいらしてください

2009年11月29日【日】 13時半～15時半

桜美林大学・プラネット淵野辺キャンパス

JR 横浜線淵野辺駅北口 徒歩1分(相模原市淵野辺4-16-1)

演題「豊かな生態系は、地域の宝」

講師：名古屋大学名誉教授・農学博士 只木良也氏

参加費；500円/人 定員100名【先着順】申し込み〆切り11月20日【金】

問い合わせ・申し込み先 NPO法人かながわ森林インストラクターの会

「森林文化部会」内野ミドリ E-mail s-m-colt@vmail.plala.or.jp

電話/fax 042(758)5058 までお気軽にどうぞ。